

白南風

しろはえ



梅雨が明ける6月末頃から吹く南風。梅雨の頃の黒雲が去って、夏の真っ白な雲がかかる頃にそよ吹く季節風。俳句を作る時に欠かせない季語として使われていました。

春から夏にかけての、どんよりした空模様が晴れていくわずかな時季。梅雨が明けると、空も風も一気に夏を感じます。



夏の始まり、盆地の京都市内から美山・亀岡・京丹後へと移動することも多くなり、山間地でスッと吹く風や空気感、自然に囲まれた環境の中でできる農業の良さを改めて感じます。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

今月より夏葱のお届けが始まりました

7月からはいよいよ丹後・美山・亀岡での収穫開始。4月頃に定植し、3ヶ月程で成長し育ったものです。今年は全体的に気温が高い傾向。恵の雨も適度にもらえたおかげで、予定よりも早めに生育してくれました。6月の最初は雨が続きましたが、中旬頃には雨も落ち着き、夏の暑さを感じつつも環境変化が少なく、ねぎへのストレスも少なかったのかなと感じます。6月下旬の天候次第で病気が広がるリスクがあるので、こまめに管理を行い、すらっときれいに伸びた夏葱をお届けします。



NO.194
2023年7月号
TEL: 075-601-0668



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

新たな試み！イスラエル農業を京丹後で

7月から収穫が始まる丹後では点滴灌漑（かんがい）の試験を行っています。農業先進国でもあるイスラエルでの農業技術を取り入れ、今後の収量アップを目指します。

現状、日本での大規模な青ねぎ栽培での試みは例がなく、設置の際も試行錯誤しながらになりました。定植を行ってからマルチを割いて点滴用チューブを這わす方法と、チューブを這わしてから定植をする方法を今回は試してみました。各々、一長一短がありトラブルもありましたが、なんとか予定分を設置することができました。



初めての試みということで、山田社長も実際の現場に立ち会われました

点滴灌漑の設置だけでも一苦労でしたが、今後は肥料成分を複数パターン試したりと、まだまだ始まったばかりです。不安な面もありますが、今後の期待とワクワクした気持ちもあり、私たちこと京都だからできるチャレンジなので、農人一同新しい技術の習得を目指します！



とある日の農人日記。

終日、宮津園場の溝切り耕起を行いました。丹後園場と土質が違って水はけがあまり良くないので、乾きやすくする為に溝切りをしました。来月予定ですが、今月中にいくつかは畝立てを実施したいと思います。（丹後エリア・浅尾）

灌漑：外部から農地へ水を人工的に供給すること。農作物の増産、景観維持、乾燥地帯で緑化する為に実行されています。



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。